Gender equality & Poverty reduction

Apr. 2024

Vol. 21

ジェンダー平等・貧困削減ニュースレター

Cover Photo: JICA / Atsushi Shibuya

CONTENTS

1. 巻頭メッセージ：企画部長　原 昌平
2. ジェンダー平等の潮流①：CSW68 報告
3. ジェンダー平等の潮流②：「ジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進」を公開しました！
4. 各国からの報告①：国際女性デーを通じた女性の活躍推進の取り組み in Sri Lanka
5. 各国からの報告②：世界初！ケニアでジェンダーに基づく暴力撤廃に特化したビジネスアイディアマラソンを開催！
6. 各国からの報告③：第 5 回タンザニア女子陸上競技大会「Ladies First」開催
7. 各国からの報告④：読売巨人軍女子チームがニカラグアを訪問、女子野球の振興に取り組む
8. 知ってる？　金融包摂シリーズ⑨　なぜ、女性の金融包摂はなかなか進まないの？
9. 書籍紹介：「生かされて」

巻頭メッセージ

私が企画部に異動してきたのは 2022 年の 10 月、ちょうど開発協力大綱の改定が本格化するタイミングでした。ここではジェンダー平等中心に取り上げます。

2015 年大綱では、「III　実施　(1) 実施上の原則 ア　効果的・効率的な開発協力推進のための原則」の中に、以下の記述がありました：

（オ）公正性の確保・社会的弱者への配慮

格差是正，子ども，障害者，高齢者，少数民族・先住民族等の社会的弱者への配慮等の観点から，社会面への影響に十分注意を払い，あらゆる場面における多様な関係者の参画に努めつつ，公正性の確保に十分配慮した開発協力を行う。

（カ）女性の参画の促進

男女平等，開発の担い手としての女性の活躍推進等の観点から，女性がさらされやすい脆弱性と女性特有のニーズに配慮しつつ，開発協力のあらゆる段階における女性の参画を促進し，また，女性が公正に開発の恩恵を受けられるよう，一層積極的に取り組む。

八年の時を経て改定された今次開発協力大綱は、「II．重点政策　　1．新しい時代の「質の高い成長」とそれを通じた貧困撲滅」の下に：

（2）複合的危機の時代において、「質の高い成長」は、以下に示すとおり、ますます重要になってきている。

ア 包摂性：感染症、紛争、大規模災害等により、世界の貧困人口は増加に転じるとともに、一部の国では格差の拡大や人道状況の悪化が見られており、難民・避難民、こども、女性やマイノリティ等脆弱層への支援が一層求められている。

と記載するとともに、前大綱の位置づけを踏襲する「2．開発協力の適正性確保のための実施原則」では、：

（6）ジェンダー主流化を含むインクルーシブな社会の促進・公正性の確保

開発協力のあらゆる段階においてジェンダー主流化を通じたジェンダー平等及び女性のエンパワーメントを推進する。同時に、こども、障害者、高齢者、少数民族・先住民族等の社会的に脆弱な立場に置かれている人々を含め、全ての人が開発に参画でき、恩恵を享受できる多様でインクルーシブな社会を促進すべく、公正性の確保に十分配慮した開発協力を行う。

としています。

今回の大綱改定は、「不易流行」、太い幹は揺るがないものの新しいものを取り込んでいくものであったと思っています。「女性」という言葉は前大綱本文の 11 回に比べて 3 回になりましたが、一方、前回登場しなかった「ジェンダー主流化」、「ジェンダー平等及び女性のエンパワーメント」という記述が入れられたことも、時代の変遷を映したものと言えるのではないでしょうか。

現在、改定された大綱を受け、新たな時代の ODA のあり方が様々な場で議論されています。その中で上川陽子外務大臣のイニシャティブで、日本らしい国際貢献の一つとして WPS（Women Peace Security）が推進されています。大綱改定の過程では WPS という言葉で語られてはいなかったと記憶していますが、上記の「包摂性」の箇所、及び「3　複雑化・深刻化する地球規模課題への国際的取組の主導」の「エ　教育」の

記述振り等から関連性を伺うことが出来ます。

改定大綱本文には、「人間の安全保障」も 8 回登場します（前大綱は 3 回）。人間の安全保障の視点に基づく公正で持続可能な開発の実現に向けて取り組むべき重要な課題であるジェンダー平等と女性のエンパワメント。それらの多くの実践の場を持つ JICA として、グッドプラクティスをより積極的に発信し、共感の輪を広げていくことが求められています。

（企画部長　原 昌平）

ジェンダー平等の潮流①：CSW68 報告

2024 年 3 月 11 日から 22 日に、ニューヨークの国連本部にて、第 68 回国連女性の地位委員会（CSW）が開催されました。CSW は国連経済社会理事会の機能委員会のひとつとして設置されており、政治・市民・社会・教育分野等における女性の地位向上に関し、国連経済社会理事会に勧告・報告・提案等を行うため、毎年 2 月～3 月に年次会合を行っています。

第 68 回となる今年は**「ジェンダーの視点からの貧困撲滅、機構強化、資金動員によるジェンダー平等達成と女性・女児のエンパワーメントの加速」**を優先テーマに、一般討論、閣僚級円卓会合、インタラクティブ・ダイアローグ等が行われたほか、様々な国・機関・団体によるサイドイベントも開催されました。

本優先テーマの設定背景には、紛争や気候変動を含む複合的な危機による貧困の拡大、政府の財政状況悪化による公共サービスの縮小、女性の貧困率の高さ（貧困の女性化）が挙げられ、女性の 10.3%が極度の貧困状態にあり、現在の傾向が続けば 2030 年には世界の女性の推定 8%（3 億 4,200 万人）貧困状態に留まるとされていることへの危機意識が多数の参加機関・参加国の代表より言及されました。

合意結論では、危機時に女性と少女が調整弁として負担を受けやすいこと、女性と女児の貧困対策にはさらなる資金・資源投入の努力が必要であること、国際金融システムは複合的な危機への対処について課題があることが指摘されました。また、ジェンダー平等のために、債務軽減や累進課税の導入、女性と女児の権利保護のための公的資金確保などが提案されたほか、公的・民間の資金源を活用し、社会的保護制度の強化やケアエコノミーへの投資も含む、ジェンダー視点に立った国家予算編成を取り入れることが勧告されました。

なお、閣僚級円卓会合では、日本代表を務めた大崎麻子氏から、本テーマに係る日本の取り組みとして、JICA の発行するジェンダーボンドについても紹介されました。優先テーマの内容・合意結論は、JICA で策定を進めているクラスター事業戦略「ジェンダースマートビジネス（GSB）の振興」の方向性とも合致しており、ジェンダー視点に立った貧困削減の取り組みを一層強化していく必要性を感じる CSW でした。

（ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 町村 美紗）

ジェンダー平等の潮流②：ガイダンスノート

「ジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進」を公開しました！

この度、ジェンダー平等・貧困削減推進室ではガイダンスノート「ジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進」を公開しました。

このガイダンスノートでは、ジェンダーの視点から女性や少女をとりまく現状や課題を確認するとともに、ジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進に向けた JICA の基本方針や必要な取り組みを示しています。JICA 事業の立案や実施に際してぜひ活用してください。

★本ガイダンスノートのポイント

1. Part1 の**女性や少女を取り巻く世界の現状と課題**では**写真や図、コラム**を多用！世界におけるジェンダー課題への理解が深まります。

2. Part2 では、JICA の方針に基づいたジェンダー主流化の考え方や実践方法が、**事例**や**調査項目・取り組み・指標の例**なども示しながらまとめられており、すぐに**事業の立案や実施に役立つ**内容です！

3. Part3 は、「無意識の偏見」について考える内容です。**「宗教によって女性の役割や行動が規定されている地域でジェンダー主流化を推進することは無理なのではないか」、「なぜ日本がこの課題に取り組むのか」**といった、皆さんも一度は考えたことがあるかもしれない、開発援助とジェンダーに関する**身近な疑問についても解説**しています。

ジェンダーに関心がある方、既に事業でのジェンダー主流化に取り組んでいる方はもちろん、ジェンダーっていまいちよくわからないけど今更聞きづらい…と感じている方、皆さまに気づきのある内容かと思いますので、是非ご一読ください！

（ガバナンス・平和構築部 ジェンダー平等・貧困削減推進室 町村 美紗）

各国からの報告①：

国際女性デーを通じた女性の活躍推進の取り組み in Sri Lanka

～スリランカが、女性が生き生きと活躍できる国になるように～

スリランカでは女性の労働参加率は約 34%に留まっており [1]（世界平均は 47.4%[2]）、女性の労働参画を促進することで GDP が毎年約 200 億ドル増加するポテンシャルがある [3]と言われています。

[1] UNDP Sri Lanka 2021 'STATE DUTIES: WOMEN'S PARTICIPATION IN SRI LANKA'S WORKFORCE AND THE UNGPs'

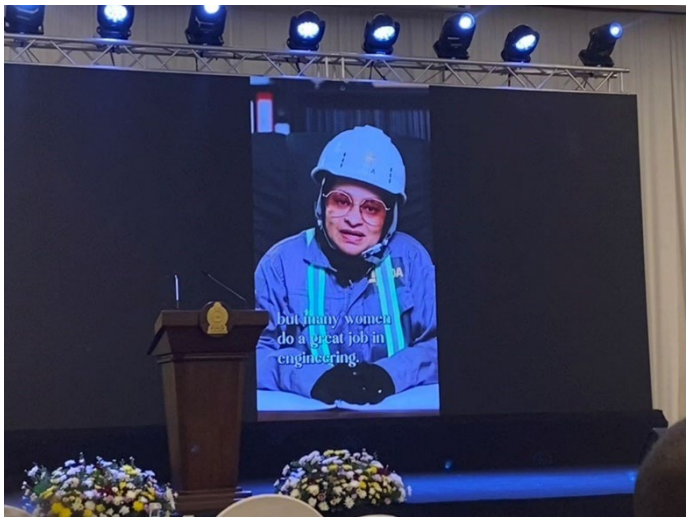
[2] ILO 2023 'World Employment and Social Outlook'

[3] McKinsey 2019 'Advancing gender equality in Sri Lanka: A crucial balancing act | McKinsey'

この状況を打破するために、JICA では「起業とビジネス、リーダーシップ及びネットワークの強化を通じた女性の経済的エンパワメント促進プロジェクト（WEE Project）」を実施し、女性起業家の支援を行っています。2024 年 3 月 8 日の国際女性デー記念イベントでは、プロジェクトの成果品を大統領にお渡しするとともに、スリランカ事務所が作成した女性の活躍に関する PR 動画の放映を行いました。

また、3 月 6 日から 7 日にかけては、スリランカ女性・子供・社会福祉省と共に、女性起業家向けのオープンマーケットを開催しました。全国各地から 200 名以上の女性が集まり、商品の展示・販売を行い、買い物客で賑わいました。さらに、女性担当国務大臣、在スリランカ日本国大使館甲木公使、JICA 山田所長が女性起業家の出展ブースを視察しました。

これらの活動が、スリランカで女性がもっと活躍するための取り組みについて、人々が考えるきっかけになることを願いつつ、スリランカ事務所は引き続き女性の活躍を後押しする取り組みを行っていきます！



国際女性デー記念イベントにおける事務所作成ビデオ放映の様子

オープニングセレモニー（テープカット）の様子
（中央右から日本国大使館甲木公使、女性担当国務大臣、山田所長）

女性起業家の商品販売の様子（右端から女性担当国務大臣、山田所長）

（スリランカ事務所 櫻澤 崇史）

各国からの報告②：
世界初！ケニアでジェンダーに基づく暴力撤廃に特化したビジネスアイディアマラソンを開催！

ケニアでは、ドメスティック・バイオレンスや性的暴行、児童婚、女性器切除などのジェンダーに基づく暴力(Gender Based Violence、 以下 GBV)が蔓延しています。国内の女性[4]の約 41%がパートナーや家族からの暴力を、女性と少女の約 13%が性暴力を経験しており、10 代のうち 15%が妊娠しています。かかる中、現地で活躍する久保田国際協力専門員(ジェンダーと開発)を中心とした JICA ケニア事務所による、GBV 課題の解決に貢献するビジネスアイディアマラソンイベントが世界で初めて（JICA 調べ）開催されました。

本イベントは、3 月 8 日の国際女性デーに合わせて、3 月 7-8 日の 2 日間にわたり、ナイロビの Daystar 大学で開催され、起業家や学生、ジェンダー関係者、行政官、JOCV など、のべ 300 名以上の参加がありました。JICA がケニアで実施中の GBV 撤廃プロジェクトのカウンターパートである NGEC（国家ジェンダー平等委員会）等現地関係者との連携はもちろん、JICA 内の企業競争力強化プロジェクトや NINJA とも連携し、当日は GBV 予防や被害当事者支援のビジネス事例なども紹介した講義やパネルディスカッションの後、チームに分かれて GBV 予防や被害当事者の自立や社会復帰支援のビジネスアイディアを検討し、発表しました。審査の結果、交通セクターの GBV 予防を提唱した KINGA 社が第 1 位に輝きました。ビジネスアイディアとしては、バイクタクシー利用で性犯罪が多発する現状に対し、携帯アプリにて運転手向け GBV 啓発教材、受講者認証、利用者による運転手評価システムを提供し、GBV を未然に防ごうとするものです。

今後は今回のアイディアマラソンを元に、具体的なビジネス化を議論するビジネスコンテストを 9 月(仮)に開催し、ケニアより GBV 対応のビジネスモデルの構築をしていく予定です。今後の動向についてもニュースレターで発信いたしますので、皆様是非乞うご期待ください！

[4] 15 歳以上の女性を指す

Bonding Time セッションに参加する笑顔の参加者たち

白熱するパネルディスカッションの様子

達成感の表情を見せる優勝チームと運営チームメンバー

最終日の記念写真(前列左から 2 番目が久保田専門員)

(ケニア事務所　境 菜美 / ジェンダー平等・貧困削減推進室 荒木 美恵子)

各国からの報告③：
第 5 回タンザニア女子陸上競技大会「Ladies First」開催

「“Ladies First”を通じて、自分の能力を示す機会を得ることができてとてもうれしい」
「女性も男性と同じようにスポーツに参加できるということを、見て学ぶことができた」

これは、2023 年 11 月、第 5 回目となるタンザニア女子陸上競技大会“Ladies First”に参加した選手たちの声です。タンザニアでは、女性の社会進出は進んでいる一方、女性がスポーツをする機会はまだ限定的であり、さらに若年妊娠や性暴力についての課題も存在しています。

“Ladies First”は、2017 年からジェンダー平等、女性のエンパワメントを大きな目的として実施している「スポーツ×ジェンダー」の代表的な取り組みとも言え、これまで大会の実施を通じて、女子選手や大会参加者に

様々な機会提供を行ってきました。

そもそも、スポーツイベントは多くの人たちが集まる場であり、その場を活用してメッセージを伝えるということが可能です。この特性を生かし、“Ladies First”では、毎年様々なサイドイベントを企画、実施してきました。

今次大会のハイライトは、大会前日に女性起業家を対象としたビジネスコンペティション。予備審査を勝ち抜いた 4 社の女性起業家が、本大会参加選手の前で、「オーガニック・ヘアケア製品の製造」、「若年層・女性向け財務管理アプリの開発」等のビジネスプランを発表しました。女性起業家にとっても貴重な機会となったことに加え、参加した女子選手においても、今後陸上選手として生計を立てられるのは一握りであるという現実を踏まえ、将来の様々な可能性に触れられるという重要な機会となりました。

大会初日には、女子選手向けのワークショップ“Diversity and Inclusion”を実施。これはスポーツそのものに、牽引役としての「女性」という存在を認識し、女性のエンパワメントを強化していくという意味を込め行いましたが、女子選手たちの生き生きとした笑顔、堂々とした表情が印象的でした。

日本では様々なスポーツが身近にあり、影響力のある女子選手も多くいると感じます。例えば、結婚後、出産後も現役を続ける選手、生理の課題について発信する選手など、私自身も少なからずその存在に励まされ、影響を受けてきました。このように、スポーツは社会や人々にインパクトをもたらし、少しずつ良い方向に変えていける力があるように思います。

今年の夏はパリ五輪が開催されます。これまでの Ladies First の参加者からも 2 名の五輪選手が誕生しました。彼女たちの活躍を応援しつつ、タンザニアにおいてスポーツがもたらす力を信じて、「スポーツの開発」及び「スポーツを通じた開発」を今後も模索し、そして促進していきたいと考えています。

ビジネスプランを発表する女性起業家

ビジネスコンペティションに参加した選手(子どもを連れて参加した選手もいる)

Diversity and Inclusion Workshop の様子

同左

競技の様子（槍投げ）

競技の様子（100M×４リレー）

（関連リンク）

★JICA ホームページ　イベントレポート

第５回タンザニア女子陸上競技大会「レディース・ファースト」 ｜ ニュース・メディア - JICA

★第５回レディース・ファーストビデオ

【タンザニア・ジェンダー】第５回レディース・ファースト（2023）（Short:1 分）- YouTube

【タンザニア・ジェンダー】第５回レディース・ファースト（2023）（Full:5 分）(youtube.com)

THE 5th Ladies First 2023 (Short:1min) - YouTube

THE 5th Ladies First 2023 (Full:5min) - YouTube

（タンザニア事務所　浅野 寿美子）

各国からの報告④：
読売巨人軍女子チームがニカラグアを訪問、女子野球の振興に取り組む

スポーツ振興を通じた国際貢献のため、JICA と連携協定を締結しているプロ野球・読売巨人軍。2023 年から本格稼働しているその女子チームが、2024 年 1 月 6 日から 11 日の日程で選手 12 名他のメンバーにより中米・ニカラグアを訪問。現地の女子野球チームとの交流試合や子どもたちへの野球教室などを行いました。同国の女子野球の更なる活性化と、スポーツを通じた開発のために実現したものです。

スポーツは心の癒しや精神的支えになることがあります。女性が制限なくスポーツに参加できることは、偏見や差別を払しょくし、個々のエンパワメントや女性にとって目標となるようなロールモデルの創出にもつながります。

巨人軍女子チームの訪問は、女性の活躍、ジェンダー平等を推進するニカラグア及び JICA にとって「ジェンダーと開発」の実践にもつながる貴重な機会となりました。

読売巨人軍女子チームがニカラグアを訪問 －JICA 海外協力隊が支援する現地女子野球チームと試合・交流！ ｜ ニュース・メディア - JICA

ニカラグア女子リーグ優勝チームとの試合を行った。収容人数 4,000 人のマサヤ球場に 3,800 人の観客が押し寄せた。試合後、マサヤ球場を一周しながら観客とハイタッチ

ニカラグア代表チーム、巨人軍女子チーム、ニカラグア野球連盟会長、マナグア市長（女性）、副市長、中村大使、JICA 小谷所長の集合写真

（青年海外協力隊事務局　小川 直生）

知ってる？金融包摂シリーズ⑨

金融包摂とジェンダー：なぜ、女性の金融包摂はなかなか進まないの？

ジェンダー平等・貧困削減推進室では、貧困層を含め開発の恩恵に預かりにくい人々の「お金のやりくり」に焦点を当てた「金融包摂」＝「全ての人々が、適切な価格で簡便に、また尊厳を持って質の良い金融サービスにアクセスし、利用できるようにすること」の主流化を進めています。このシリーズでは金融包摂の基礎的事項を紹介しております。

ジェンダー平等・貧困削減推進室では、貧困層を含め開発の恩恵に預かりにくい人々の「お金のやりくり」に焦点を当てた「金融包摂」＝「全ての人々が、適切な価格で簡便に、また尊厳を持って質の良い金融サービスにアクセスし、利用できるようにすること」の主流化を進めています。このシリーズでは金融包摂の基礎的事項を紹介しております。

前号ではいまだ 14 億人の成人（3 人に 1 人）が正規の金融サービスにアクセスできず、また金融サービス利用のジェンダーギャップがなかなか縮まらないことをお伝えしました。

では、なぜ女性の金融包摂は進みにくいのでしょうか。ここでは、Vol.13 と 16 で取り上げた金融エコシステムと マーケット・システム・アプローチのフレームワークに基づいて女性の金融サービス利用の障壁を見てみたいと思います。まず、ミクロレベルでは、金融ニーズを持つ貧困層や低所得層の女性は土地など担保となる資産を十分に持たず、また金融やデジタルリタラシーが低いという問題があります。他方、サービス提供側の金融機関側にも、女性セグメント市場の潜在性に対する認識不足や、担保資産保有が限られ、また家庭の無償ケア労働や文化規範の関係で遠出しにくいなどの女性固有のニーズの把握やそれに基づく商品開発をする能力が不足しているなどの問題があります。また、メゾレベルでは、キャッシュ・インーキャッシュ・アウ

ト（CICO）を行う代理店サービス網に女性が少ないため、女性顧客がサービス利用をためらうなどの問題も生じています。そして、マクロ、すなわち、規制や政策・戦略レベルでは、男性に比し ID 所持率の低い女性の KYC 要件の見直しやジェンダー視点に立った金融包摂戦略の欠如などが挙げられます。そしてこれらすべてのレベルに女性差別につながりやすい無意識のジェンダーバイアスが影響しており、これら要因が複雑に絡み合い、男性に比べ、女性の金融包摂を困難にしている現状があります。なお、LGBTQIA+の人たちの金融アクセスにも課題があると言われており、上に挙げた障壁のいくつかの要因は LGBTQIA+のそれぞれのグループにも影響していると思われます。

ジェンダーと金融包摂についてもいくつか有用なサイトがあります。その中でも CGAP が運営してきた FinEquity は、金融包摂におけるジェンダーギャップ解消に関心を持つ向きの自主的なナレッジ・シェア・プラットフォームで、セミナー含め様々な情報・意見交換の機会を提供しています。誰でも登録でき、ニューズレターも受信可能ですので、ご関心のある方は是非ご登録されてみてはいかがでしょうか。

（国際協力専門員　菅原 鈴香）

書籍紹介：「生かされて」

イマキュレー・イリバギザ スティーブ・アーウィン著 / 堤 江実 訳
発行所：ＰＨＰ研究所（2009/07 発売）
ISBN：4569672574

「生かされて（Left to Tell）」は、1994 年のルワンダ大虐殺の生存者であるイマキュレー・イリバガイザの実体験をもとに書かれたものです。

ルワンダ大統領専用機が首都キガリ上空で撃墜され、この事件を皮切りに国中で数カ月にわたるツチ族の虐殺が起こりました。著者であるイマキュレーが住んでいた地域も男性、女性、子供が関係なく虐殺に巻き込まれます。彼女もこの大虐殺で多くの家族を失いました。

大虐殺が始まって間もなく、イマキュレーの父親は、彼女をレイプや殺人から守るため、彼女を含む 7 人の女性を 3×4 フィートの隠しトイレに保護します。それから 91 日間という長い時間、イマキュレーは小さなトイレで息をひそめ、この書籍のもととなる日記をしたためながら、大量虐殺が終わる日を待ちました。

この経験をもとに本書籍を執筆した彼女は、1998 年にアメリカに移住し、ニューヨークの国連本部で働き始めます。その後ルワンダの孤児を支援するために Left to Tell Charitable Fund を設立し、Women's Conference 2017 で登壇するなど、女性を含むあらゆる人への暴力や差別に対する啓発活動を精力的に行い、和解と平和のためのマハトマ・ガンディー国際賞やノートルダム大学とセント・ジョーンズ大学から名誉博士号を授与されるなど、数々の賞を受賞しています。

本作品は、悲惨なルワンダ紛争の中に平和構築、ジェンダー平等などあらゆる視点での気づきがある貴重な一冊です。また、現在も続く著者の活躍は、読者に希望と勇気を与え、どんな困難に直面しても、その内なる力と決意によって克服できることを示していました。この書籍は、ぜひ皆様におすすめしたい一冊です！

（ジェンダー平等・貧困削減推進室　髙橋 莉奈）

ジェンダー/金融包摂案件、関連広報のリンク

・ガイダンスノート　ジェンダー視点に立った COVID-19 対策の推進」
https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/materials/COVID-19.html
・JICA 事業におけるジェンダー主流化のための手引き
https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/materials/guidance.html
・New！起業支援プログラムにおけるジェンダー主流化チェックリスト
https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/__icsFiles/afieldfile/2023/09/20/Checklists_for_applying_Gender_Lens_to_JICAs_entrepreneurship_support_programs_jp.pdf

終わりに

皆さま、こんにちは！いつも本ニュースレターをご覧いただき、誠にありがとうございます。3 月 8 日に国際女性デーもあり、各所から賑やかで素晴らしい活動報告があり、印象的なものとなったように感じます。

本ニュースレターは、年 3 回程度発行しており、次号は夏頃に発行予定です。

これからも少しでも多くの方々がジェンダー主流化に興味を持っていただけるよう、情報発信してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します！

読者の皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。（連絡先：gpgge@jica.go.jp）

（編集：ガバナンス・平和構築部　髙橋 莉奈）